



サポートネットのコロナ禍 ～住居部門から

新型コロナウイルスで緊急事態宣言が出されて一年が経ちます。当法人の GH でも感染予防しながら入居者さんの生活の質をどう保っていくか、答えがわからないながら支援を続けてきました。前回の就労部門に続き、今回は当法人の住居部門のコロナ禍の対応についてお伝えします。

●支援体制の整備

昨年 4 月 16 日、全国への緊急事態宣言が発令されました。当法人では職員間の協議を経て様々な対応をとっています。まずは職員体制の整備。平時であれば法人本部で職員が集まり業務をこなしていましたが、密を避けるため GH サービス管理責任者は各担当の GH に分散出勤。その他職員は座席の間隔を空け業務にあたりました。

一同がかえすのは毎週月曜日の短時間のミーティングのみ。直接情報交換が難しくなることが予想されるため、サビ菅各自に携帯電話を配布。また LINE グループを作成し情報共有がしやすいように努めました。

また、学校が休止となったために子どものいる職員は家庭での子どもの面倒がみられるように職員規約を改定しています。

●入居者さんへの対応

GH での対応は職員による定時の消毒・換気の実施。食堂での密を避けるために入居者さんの食事時間をグループに分け食事を摂ってもらうなどの対応をしました。

面会者は面会票に記入していただき、ご家族の方はなるべく GH 内には入ってもらわず玄関での面会を、ケアマネ、訪問看護などの方も長時間滞在してもらわぬよう配慮を求めています。一番難しい対応は入居者さんへの感染病対策の周知です。入居者の方もコロナウイルスへの受け止め方も様々でした。

Group Home date



スカイコーポ

西 3 南 4-4-1

定員 18 名(空室 2)

ひまわり荘

西 5 南 9-2-8

定員 11 名(空室 1)



イランカラプテ

西 15 南 16-2-4

定員 8 名(空室 2)

結(ゆい)

西 18 南 2-6-11

定員 9 名(空室 1)



真面目な方は外出自粛をまともに捉え、自らの様々な行動に制限をかけますが、返ってそれ」がストレスを生む原因となり体調を崩す方もいらっしゃいました。一方でコロナウイルスの情報が適度に理解されていないのか、マスクをせずに自由に外出する方もいらっしゃいました。

ここで難しいのは支援者としてどこまで彼らに行動制限を求めてよいのかという点です。たとえ

Group Home date



コーポ長浜

西 18 南 5-9-6

定員 7 名 (満室)

朋友荘

西 19 南 2-9-8

定員 11 名 (空室 1)



高橋荘

東 2 南 4

定員 6 名 (空室 2)

悠夢ハイツ

西 2 南 18

定員 12 名 (空室 2)



コロナ禍であったとしても、どこに行こうが、何をしようかはご本人の自由ですし、尊重されるべきです。ただ、GH という共同生活の場において、一人でも感染者が出てしまえば GH 全体、もしくは周りに生活している方々に感染拡大してしまう。

コロナウイルスの情報は日々更新されていきます。それらの情報を皆さんにわかりやすくかみ砕いて自主的に感染予防に努めてもらうのが理想ですが、一朝一夕でかわるものでもありません。ただ、支援者は日々得た情報を伝え続ける事が重要なのだと思います。

SUN プロ例会及び Café 案内

・月例会；

5月18日 18:30 (通常第2火曜)

・Café「NANDA かんた」；

毎月第4火曜, 18:30 サポネ本部ロビー

Staff Column 実録・我流ソーシャルワーク

『SHOUGAI』

職員コラム

「障害」のことであり「障がい」のことである。この表記には賛否両論ある。見栄えは「障がい」がソフトなイメージだ。「精神分裂病」が「統合失調症」になり、スティグマ度が下がったという例もある。だが「しょうがい」と耳で聞いた時にはネガティブな「障害」をイメージする。

漢字表記はやはり、あまりいい印象は持たれない。当事者団体でも意見が分かれているが、DPI 日本会議などは漢字表記が望ましいと言っている。ひらがなは「障害と社会との相関(障壁)」が見えなくなる(医療モデル vs 生活モデル)と言うのが根拠だ。

私は耳障りのよい別の呼称があればと都合のいい事を思っている。ちなみにサポネの法人登記は、私の思い入れもあり「障害者」である。だから当然すべてを「障害」表記にする…はずだった。しかし事務所の外壁には横幅 3m 超の勝障がい者…」の看板が堂々と居座っている。

なぜか？理由は簡単だ。看板屋のおやじさんから「ダンナの潔さってエのも分かりやすがネ。世間様じゃやっぱ見栄え 9 割ってエこともありやすンですよ」の一言で決まってしまったのだ。なんとも情けなく呆気ない宗旨替えだ。

いったい私の思い入れとか、こだわりとは何だったのか…そう、どう綺麗ごとを言おうと、私はガキの頃から長い間彼らの姿、形をみて、社会にとって差し障りがあり、かつ不穏な存在の人たち、ときには可哀そうな人たちと認識してきた(そう教えられた)からではなかったか。それが私にとっての「障害者」なのだ。

今更ひらがな表記でもねえだろうと自分に問う。「障害者」はそんな私の心の在り様の移り変わりや、彼らの処遇の歴史なんかを映し出している私の鏡なのだと思っている。だから漢字表記は残したいと少し意気がってみる。